

I、本園の教育目標

「いつもにこにこ元気な子ども」

- 1、健康でたくましい子どもに
- 2、だれとでも仲よくできる子どもに
- 3、しっかりと約束の守れる子どもに
- 4、あいさつのできる子どもに
- 5、自分で考えて行動のとれる子どもに

II、本園の自己評価の状況

◎目標を上回る ○目標に達する △目標に届かない

	評価項目	結果	取り組み状況
			○よくできている ×課題
1	幼稚園の運営について	◎	○クラス運営、バス乗車、預かり保育を皆で協力して運営できている。 ○長期休業中の預かり保育の開始し、保育内容の充実を図った ×人手不足、学年の話し合いを計画的実施
2	保育の在り方、幼児への対応	◎	○特別な配慮が必要な幼児に対して教員全体で話し合い、チーム保育を行い、発達を支援することができた。 ×戸外遊びで子どもたちの体の動きの獲得を目指した保育内容の改善
3	保育者としての資質・良識・適性	◎	○行事の計画案の作成を含め、仕事の期限を守り、取り組んでいる。 ×教材、教具の管理 遊具や用具など遊びの充実の見直し
4	保護者への対応・守秘義務	◎	○保護者からの相談は親身に対応し、信頼関係を築いている。 ○保護者の相談、要望等について、上司に報告、相談を確実にし、教職員で共有した。 ×手順書の見直し
5	地域の自然や社会とのかかわり	◎	○小学生、中学生を受け入れ、幼稚園の仕事を学べる機会を増やしている ○近隣のビルとの交流を活発に行った。 ×地域の自然や施設、環境を保育の中で活用
6	保育者の専門性に関する研究・研究への意欲・態度	○	○社会的教育課題や子どもの問題を常に考え、研修や研究はみんなで取り組んでいる ×研究協議のための時間の確保
7	地域における子育て支援	○	○にこにこひろばは、内容の工夫により継続的な参加者が多い。 ×子育て相談の実施、地域(小規模保育園)にアピールする場の確保

IV、保護者評価の状況

◎目標を上回る ○目標に達する △目標に届かない

評価項目	結果	内 容
お子様について	◎	・先生とかかわり、親和感を形成して園生活が安定することが主体的な活動の基盤になり、高い評価だった。一方、暑い日が多く、戸外遊びを制限することもあったため、運動遊びについては少なかった。
園の運営について		・東京都のすくわくプログラムに参加し、砂遊びや泥粘土、積み木による探究活動を展開して、子どもたちの知的好奇心を高めたとして、高く評価された。 ・行事の内容、方法を工夫し、子どもたちの活動が高く評価された。 ・預かり保育を拡充し、夏期、冬季の長期休業中も実施し、多くの利用者があった。
家庭との連携について		・給食試食会や保育参観で子どもの様子を見る機会を作るとともに、対面での面接で子どもの様子を伝えたりしながら、子ども理解について保護者と共有できた。

V、総合的な評価結果

評価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・保護者評価共に良い評価である。 ・一人一人を大切にされた保育を通して保護者から信頼された。 ・行事の見直しを行い、特に「子どもアート展」「表現遊び」が高く評価された。 ・子どもの発達に合わせた保育が工夫しており、担任以外の教員も子どもとかかわっており、教職員で見守っていることが評価された。 ・東京都の『すくわくプログラム』で、「物の性質としくみの理解」の砂遊、積み木の活動を中心に探究活動を取り入れ、3月には活動の冊子をご家庭に配布した。 ・誰でも預かり保育を希望でき、夏期休業、冬期休業の預かり保育も実施し内容の工夫を行った。

A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・成果がなかった

VI、今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	・思考力育成のための探究活動の研究	「物の性質としくみの理解」を主題とし、今年度は動かして遊ぶ遊具を中心に環境を工夫して、幼児の遊びを活性化し、研究を行う。
2	・戸外活動の充実	・今年度は、暑さのため戸外での運動遊びの制限を行った。8年度は幼稚園の室内での活動や近隣の広場を使って戸外の活動を充実させる。

VII、学校関係者評価委員の評価

- ・園の行事の質が高く、教職員の連携がとれている。活動している子どもたちの目が輝いており、充実した園での生活がうかがえるとして高く評価された。

*全日本私立幼稚園幼児教育研究機構発行 「私立幼稚園のための学校評価ハンドブック」参考